

研究・調査報告書

報告書番号	担当
351	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
The influence of health behaviors on survival in lung cancer patients in Taiwan. 台湾における肺癌患者の健康リスク行動と生存率について	
執筆者	
Li YH, Shieh SH, Chen CY	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Jpn J Clin Oncol. 2011 Mar;41(3):365-72.	
キーワード	
肺癌、健康リスク行動、生存率、台湾	
要 旨	
<p>目的： 患者の健康リスク行動 (health risk behavior) が疾患の生存率に影響することはよく知られている。喫煙はそれ単独で肺癌の生存率に影響する有意な健康リスク行動であるが、その他の健康リスク行動はまだ明らかではない。そこで、この研究では肺癌の生存率に影響する健康リスク行動について検討する。</p> <p>方法： 台湾中部の中央病院で組織学的に診断された 1,410 例の新規肺癌を対象とした。患者の診療録は 1998 年 1 月 1 日から 2004 年 5 月までを対象とした。患者特性と健康リスク行動と生存率の関連を分析するために、t 検定と分散分析を用いた。患者特性と健康リスク行動とステージ分類の関連を分析するためにカイ二乗検定を用いた。患者特性と健康リスク行動による生存率を Cox 比例ハザードモデルで計算した。</p> <p>結果： 生存時間と喫煙($p<0.001$)、飲酒($p=0.027$)、(自己負担の) 定期検診($p<0.001$)との間に有意差が認められた。ビンロウジの消費者と非消費者の間には有意な生存率の差はなかった。Cox 比例ハザードモデルでは、喫煙($p=0.02$)、(自己負担の) 定期検診($p=0.017$)、肺癌の診断時のステージ($p<0.001$)が肺癌患者の生存時間に影響していた。</p> <p>結論： 喫煙、飲酒、定期検診、診断時ステージが肺癌患者の生存率を決定する重要な要因であることが示された。</p>	